「世界の100校」に選ばれた京都の小学校に行ってみた！

「世界の100校」に日本の小学校が選出？
そのうちの1校はなんと京都市北区にある立命館小学校――なのです。
ところで、そもそも「世界の100校」って何なのでしょう。
それに選ばれるとはどういうことなのでしょう。
立命館小学校を訪ね、ICT教育部長の正頭先生にお話を聞きました。

立命館小学校 主幹
正頭（しょうとう） 英和（ひでかず）先生

ICT教育部長として立命館小学校のICT教育推進を担う正頭先生は、英語科教諭でもあります。2019年グローバル・ティーチャー賞のTOPICにノミネートされました。

「100校のうち日本から選ばれたのは2校のみで、小学校は本校だけです」と話す正頭先生。立命館小学校の英語科とICT教育を担当しています。「世界教育週間」では堀江小・中・高代表校長らとともに、立命館小学校の先進的なオンライン授業等を紹介しました。

「いつでも」「どこでも」「何度でも」受けられる

開校当初からICT教育を積極的に進めてきた立命館小学校。このたびのコロナ禍で日本各地の学校が対応に追われましたが、立命館小学校はオンライン授業実施へいち早く舵を切りました。

立命館小学校は2015年からマイクロソフト社のShowcase Schoolsに認定されており、同社のバックアップを享受できるメリットがあります。しかし、それに加えて、そもそも立命館小学校では「教師陣のICTスキルが高い」（正頭先生）。さらには「保護者のみなさんも本校のICT教育推進を踏まえて子どもたちを通わせていますから、パソコンやスマホなど家庭のICT環境への協力が積極的」だそうです。

同校では4月から6月上旬までの休校期間、オンラインを多様に使って授業を展開。毎朝の「朝の会」では、担任と子どもたちがZOOMでリアルタイムでつながって「おはよう」の挨拶を交わし、その他の授業は教科ごとに動画配信を行い、子どもたちがいつでも見られるよう準備しました。

いち早く、3月の卒業式でオンライン化を実現しました。

「教師陣に伝えたルールは、動画は15分程度で作成、そして顔を出すこと。子どもが安心しますからとおっしゃる正頭先生。15分の授業って短くないですか？

「15分ならいつでも、どこでも見られます。子どもの健康を一番に考えたとき、一教科15分が限界だと考えました。子どもたちは、それを何度も見るわけですから」ときっぱり。

ICTツールは文房具

パソコンやタブレットの「使い方習得」という話ではないと正頭先生は言います。「筆箱の中には四六時中使わないけれどコンパスも入っていて、いつも持ち歩いていますよね。それと同じです。いつも携帯し、必要になったらさっと取り出してすっと使うもの。それがICTツールです。文房具なんですよ」。重要なことは、この文房具を使って「何を学ぶか」。また、この文房具のおかげで短縮できた時間を学びの深化あるいは新しい探究に向ける――そんなことが可能になります。教員の創造力が試されるといえますが、コロナ禍での動画授業はまさにその実践の場でした。

休校期間中のオンライン授業の様子

学ぶ場所を子どもが選ぶ時代

15分の動画を見て、理解できれば次に進み、わからない時はわかるまで何度も繰り返し視聴する――子ども自身のペースで勉強ができるなんて素晴しいことです。登校が再び始まってから、正頭先生は子どもたちにオンライン学習の感想を尋ねたそうです。すると「いつでもどこでもできるから、オンライン学習は子どもたちにとって心地よかったそうです。先生方の創意工夫のおかげで動画はバラエティ豊かで退屈しないし、わかるまで何度も見たという子もいました」（正頭先生）。

このような取り組みが「世界の100校」に選ばれた大きな理由のひとつだったのでしょう。ではいったい、学校へ来る意味はどこにあるのでしょうか？

「それも聞きました。すると友達と遊ぶため、友達に会っておしゃべりするために来るんだよと明快に答えます。僕はこれ、重要なことだと思っています。子どもたちにとって学校はひとつの社会です。人とのつながりを求めて来るんですよ。それでいいと思います。学校の役割は、「学ぶ環境の提供」だけに留まらず、子どもたちをつなぐ役割にもなっているのだと再認識することができました」。

「世界教育週間」で授業を紹介

デンマークの教育支援団体「T4」が主催する「世界教育週間」。この行事でプレゼンテーションをする「世界の100校」に、立命館小学校が選ばれたのです。今回は10月にオンラインで開催され、立命館小学校は、「コロナ禍での学び」をテーマに、英語教育やマインクラフトを活用したプログラミング授業等について発表しました。

Minecraftを利用したICT教育。
日本の観光地をつくり、世界に発信しました。

正頭先生がノミネート！

Global Teacher Prize
（グローバル・ティーチャー賞）

すべての子どもたちが質の高い教育を受けられることを目指し、英国のバーキー財団（Verkey Foundation）が2015年から行っている、教師を支援する取り組み。教育界のノーベル賞ともいわれ、教育に大きく貢献した教師が表彰されます。

立命館小学校英語科教諭でICT教育部長の正頭英和先生は、2019年のグローバル・ティーチャー賞トップ10ファイナリストに選出されました。「6年生の課題であるゲームソフトMinecraft（マインクラフト）Educationでの建築、観光ガイドのプログラミング等でノミネートされました」（正頭先生）。

子どもたちの自主性を大切にし、海外の学校とのオンライン交流を通して高いプレゼンテーションとコミュニケーションの力を育んだ点が評価されたそうです。この受賞で世界中に教員ネットワークを築いた正頭先生は、このたびのコロナ禍での対応にあたり、各国の先生たちの意見を参考にすることができたといいます。

認定されたのは「世界の100校」だけじゃない！

Microsoft Showcase Schools
（マイクロソフト・ショウケース・スクールズ）

Microsoft Showcase Schoolsとは、ICTで教育を変えたいという強いビジョンを持ち、ICTを日常的に活用し実践を広めていく意思のある学校に対して、マイクロソフト本社が認定を行うものです。立命館小学校は2015年以来6年連続で認定を受けています。2020年度は日本国内の小学校では唯一の認定校となりました。

まだICT教育黎明期であった2012年に、立命館小学校では導入の出発点にMicrosoft Officeアプリケーションを選びました。「子どもたちの将来にとってはMicrosoft Officeを使えることが必要と判断し、自ずとタブレットやパソコンもそれと親和性の高いものを選ぶことになりました」「パソコンはいずれ文房具のひとつに過ぎなくなります。鉛筆や定規、コンパスのようにいつも持ち歩いて必要な時にさっと出して使える。そうした道具のひとつとして利用すべきです」（正頭先生）。

Microsoft Showcase Schoolsの認定はこうした取り組み姿勢が評価されたものです。

6年生にはマイクロソフトの講師による
プレゼンテーション授業も。

立命館小学校
RITSUMEIKAN
京都市北区小山西上総町22番地
TEL:075-496-7777
http://www.ritsumei.ac.jp/primary/
【アクセス】地下鉄「北大路駅」2・3番出口より西へ徒歩約3分
立命館小学校

詳細はホームページをご覧ください。また、その他イベント情報はメールマガジン「きたおおじくらぶ」でも案内いたしますので、ぜひご登録ください。

LINE・Instagramでも情報配信中！
LINE
友達登録で入試・イベントの情報をお届けします！
Instagram

入試イベントスケジュール
学校説明会
11月26日（木）～12月14日（月）
※開催されている日はHPご確認ください。
年中向け体験教室
12月12日（土）